

「街へ」を目指して 街地活性化の取組～

【はじめに】

沖縄市中心市街地活性化基本計画が県内で初めて内閣総理大臣から認定

全国の都市では、これまで、人口増加とモータリゼーションの進展等を背景に、公共公益施設の郊外移転や大規模集客施設の郊外立地等により「まち」は郊外化し、中心市街地の居住人口の減少、中心市街地のコミュニティとしての魅力低下、中心市街地の商業地区が顧客・住民のニーズに十分対応できないことなどにより、中心市街地の衰退が進みつつあります。

しかし、人口減少社会を迎え少子高齢化が急速に進行する現代において、これまでのような拡散型のまちでは、生活者への多様なサービスの低下と都市の維持管理コストの増大等により、快適な生活の維持が困難な状況となります。そのため、これからは「コンパクトでにぎわいあふれるまちづくり」を目指し、「都市機能の市街地集約」や「まちなか居住」、「中心市街地の商業・コミュニティ機能の強化」等を一体的に取り組むことが、持続可能な都市形成に必要な要素と考え、政府は、いわゆる「まちづくり三法」の改正等を行いました。

このような状況のなか、平成22年3月に「中心市街地の活性化に関する法律」（以下「中心市街地活性化法」という。）の規定に基づき沖縄市が策定した「沖縄市中心市街

地活性化基本計画」（以下「沖縄市基本計画」という。）が、全国で100番目、沖縄県内では初めて認定を受けました。

【沖縄市基本計画】

沖縄市活性化のテーマは「コザらしい生活ができるまち／商店街から交流街へ」

沖縄市の中心市街地は、嘉手納基地の門前町として、また、商業機能をはじめ都市機能が集積した沖縄本島中部圏の中核都市として、飛躍的な発展を遂げてきました。

戦後、アメリカ文化等の影響を強く受けた国際色豊かなまちなみや、伝統文化と異文化が融合（チャンプル）された沖縄市独特の「コザ文化」と言われる沖縄市独自の地域資源がまちなかの随所に培われています。

一方、全国の多くの都市と同様に、モータリゼーションの進展、高齢化といった社会情勢の変化、郊外部における市街地化の拡大、さらには近隣市町村への大型商業施設の相次ぐ出店などを背景として、空き店舗の増加、歩行者通行量の減少、交流機能の低下など、かつてのにぎわいを喪失しています。

このような状況の中、沖縄市では行政と民間が一体となって中心市街地の活性化に取り組むため、中心市街地活性化法に基づき民間事業者を中心に組織された「沖縄市中心市街地活性化協議会」（以下「沖縄市設活協議会」という。）を平成20年11月に設

置し、沖縄市中心市街地の現状分析や市民ニーズの把握・分析、これまでの取組の検証を行い、「コザらしい生活ができるまち／商店街から交流街へ」の活性化テーマの下、「コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり」と「住む人目線での良好な生活空間の創出」を2つの基本方針とした「沖縄市基本計画」を策定し、平成22年4月から平成27年3月までの5年間で、官民合わせて約50事業を実施する予定で、既に成果を上げている事業もあります。

（主な事業）

- ・ 沖縄市中心市街地循環コミュニティバス事業
- ・ 山里第二地区市街地再開発事業
- ・ コリンザ再生事業
- ・ 音の回廊整備事業
- ・ 安慶田地区土地区画整理事業

【経済産業部の支援状況】

沖縄市の中心市街地活性化に向けて、各種補助事業を通じて支援

沖縄総合事務局経済産業部及び経済産業省では、沖縄市の取組に対し以下のような支援を行ってきました。

1. 「新・がんばる商店街77選」

全国の商店街のうち、高齢者・子育て支援や地域の魅力を発信することにより、地

「商店街から交流」 ～沖縄市中心市街～

域から信頼される商店街を紹介するため、平成21年6月に「新・がんばる商店街77選」に一番街商店街と銀天街商店街を選定・表彰を行い全国に両商店街の取組を紹介しました。

○沖縄市一番街商店街

「商店街交流ひろば コザBOX」を設置、トイレ休憩スペースの整備と交流拠点の整備により、地域との協働でコミュニティの回復を



一番街商店街

図っています。

最近では、コザBOX周辺に設置された休憩スペースで多くの方がユンタク（談笑）する姿がよく見られます。

○沖縄市銀天街商店街

「食とアートのまちづくり」を目指し、地域の台所としての機能に加え、若者やアーティストによるユニークな活性化に取り組み、独自の商店街再生を図っています。

毎月第3土曜日には、銀天街まつりが開催され、多くの人でにぎわいます。また、銀天街のマスコットの「天ぶらのぷーらくん」も話題となっています。



銀天街商店街

2. 中心市街地商業等活性化支援事業

中心市街地活性化法の普及・啓発を図り、沖縄市における活性化協議会設立や基本計画策定を支援するために、平成19年度から

平成21年度の3年連続でシンポジウムを開催しました。また、平成22年度においては、沖縄市基本計画の着実な目標達成を支援する目的で、地域連携や事業連携を題材とした「地域をつなぐ人の講座」を開催しました。

3. 戦略的中心市街地商業等活性化支援事業

基本計画に基づき、地域の自治体、商店街、商業者など幅広い関係者と連携を図りながら実施する商業施設又は商業基盤施設整備事業及び商業等の活性化に寄与する事業に対し支援を行うため、平成22年度、沖縄市から3事業を採択し支援しました。

○胡屋地区リノベーション事業

（NPO法人コザまち社中）

長期空き店舗物件を改修し、公共的な施設やチャレンジショップを設置・運営することで商店街の活性化及びまちのイメージアップを図り、にぎわいを創出するための事業です。

現在では、「コザゲートアパートメント」と「コージセントラル」の2つの商業施設がオープンし、アクセサリ、衣類、家具、日用雑貨の販売を行うチャレンジショップが営業しています。

本事業は、継続事業として平成23年度も採択されました。



プロムナードコンサート事業

○プロムナードコンサート事業

(沖縄商工会議所)

中心市街地内において、まちなかコ
ンサートを開催するとともに、各個店の



胡屋地区リノベーション事業



コザミュージックタウン

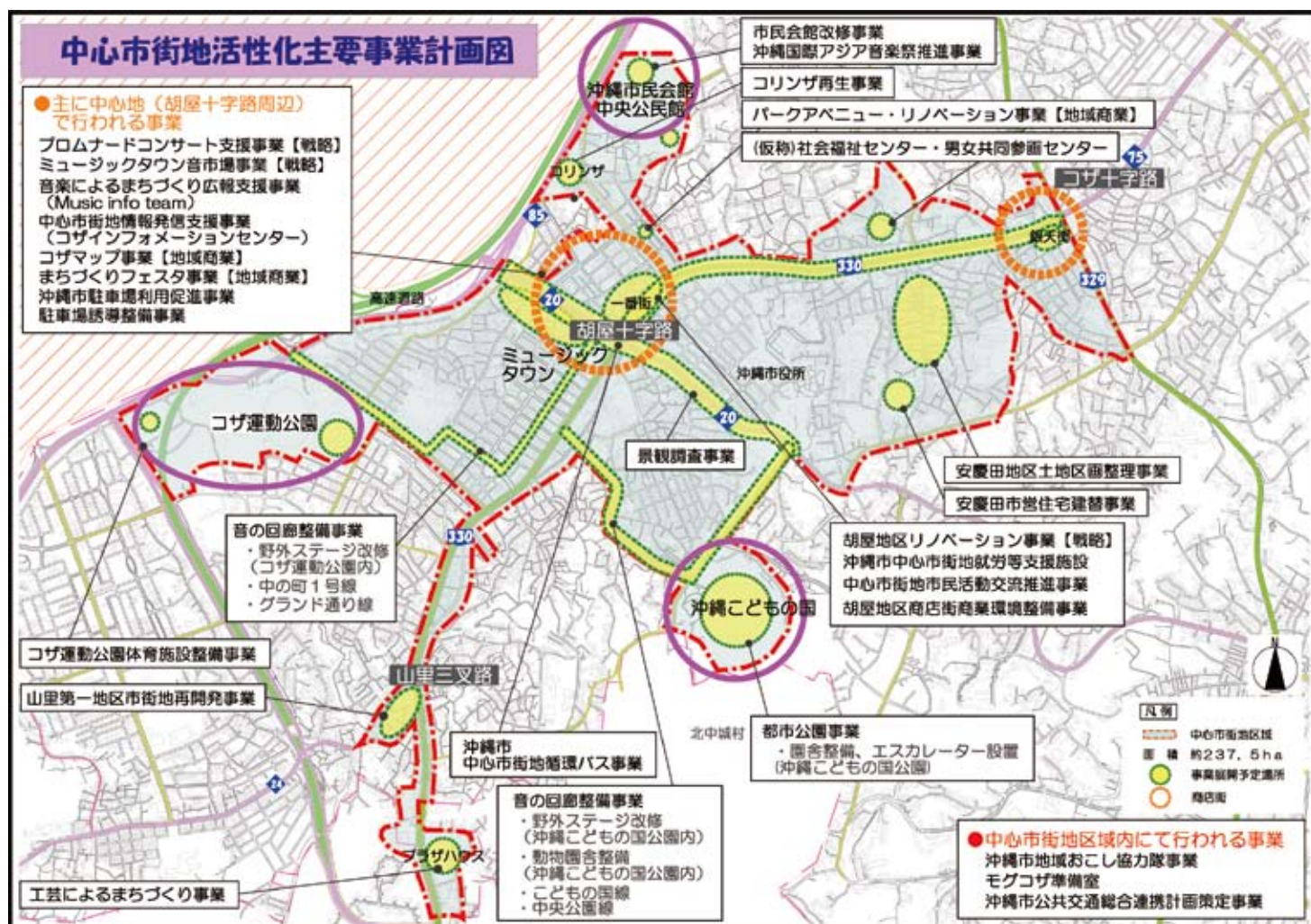
逸品を開発する二店、逸品事業を展開し商店街の活性化、商店街全体の魅力向上、にぎわいの創出、音楽を活用した人材育成及び音楽文化の振興を図るための事業です。

○ミュージックタウン音市場事業

○ミュージックタウン音市場事業

(株式会社ミュージックウェーブ)

県外修学旅行生を対象に沖縄歴史文化の解説と音楽の生演奏を組み合わせたエンターテイメントショー及びまちなか回遊プログラムを実施し、にぎわいの創出と音楽によるまちづくりを図るための事業です。



4. 地域商業活性化事業

（平成22年度補正予算事業）

緊急経済対策の二環として、地域経済の活性化のため、商店街振興組合等が実施する来街者の増加を図るために実施する事業に対し支援を行うことを目的として、沖縄市での取組に対しても支援を実施しました。

○コザマップ事業（コザ商店街連合会）

携帯用端末用のアプリケーションを活用し、商店街の集客力向上を図る事業です。コザBOXなどで、来街者に対して、携帯用端末の無料貸出を行い、胡屋地区のお店やイベントに関する情報を発信しています。



コザマップフライヤー

○パークアベニュー・リノベーション事業

（NPO法人コザまち社中）

空き店舗を活用した商店街情報の発信や子育て・就労支援を行う事業です。

現在では、子育て支援施設及び就労支援施設（ジブカフェ）を設置し、小さな子どもの一時預かりを行うなど来街者が安心して買い物やイベントを楽しめるように取り組んでいます。

【おわりに】

沖縄市胡屋地区の一番街商店街及びサンシティ商店街では「一番街商店街・サンシティ商店街等活性化計画」を策定し、老朽化したアーケードの改修を柱とした「胡屋地区商店街商業環境整備事業」の実施に向けて、沖縄市基本計画の変更認定及び平成23年度戦略的中心市街地商業等活性化支援事業の採択を目標に調整を進めています。

このように沖縄市では地域が主体となって活性化に向けた新たな取組が活発に議論されおり、沖縄総合事務局経済産業部では、行政機関、沖縄市中活協議会、商店街、商業者など幅広い関係者と連携を図りながら、このような取組への支援や情報発信により、引き続き、沖縄市基本計画の着実な目標達成を支援していきます。

これから夏本番を迎え、沖縄市ではキジムナーフェスタ、ピースフルブロックフェスティバル、沖縄全島エイサーまつりなど様々なイ

ベントが計画されており、多くの方が沖縄市を訪れると思います。その際にはちよつと足を伸ばして、商店街から交流街に変わり始めた沖縄市の商店街を散策することをお奨めします。

最後に、沖縄総合事務局経済産業部では平成23年2月に「沖縄感性・文化産業報告書」を作成し、本報告書の内容を踏まえつつ、文化による今後の沖縄振興と沖縄感性・文化産業の可能性を広くアピールすることを目的として7月16日（土）に沖縄本島中部圏における文化・芸能の情報発信の中心であるミュージックタウン音市場において「第2回 感性・文化産業シンポジウム〜センスカルチャーでヒヤミカチ〜」を開催しますので、多くの方が御参加下さいますようお願いいたします。

（経済産業部商務通商課）



エイサー